

秋田県藤里町での国内研修「きらり☆カリキュラム」報告書

秋田県は国内でも最も高齢化率が高い地域であり、その中でも藤里町では65歳以上の高齢者が全人口の4割を超えている。町内での高齢化に伴い若者を含む人口減少も課題となっている中で、藤里町ではどのようにして人口減少の対策を行っているのか、また地域内のネットワークや地域おこしの取り組み等を学んでこようという試みで今回の研修に参加した。

冒頭にも記載している通り、藤里町は高齢化が進む日本全国でも特に高齢者割合が高く42%を超えている高齢者の多い町として高齢者福祉分野での支援事業に取り組んできた。また主に一人暮らしの高齢者ひきこもりや長期不就労者など何らかの生きづらさを抱えている生活困窮者にとっての居場所づくり・活動の場づくりや地域活性化への貢献として、福祉の拠点「こみっと」支援事業が平成27年度から国が実施している生活困窮者生活支援事業の先駆けとして注目を集めているためである。高齢者人口が全国の中でも多い秋田県では、平成17年度より「福祉でまちづくり」を合言葉に地域福祉トータルケア事業として・総合相談、生活支援システム構築・介護予防のための健康づくり、生きがいつくりなど高齢者やひきこもり・障害者に限定した求職者支援の分野に力を入れてきたいわゆる福祉で町づくりを行っている町である。

今回のきらりカリキュラムの内容として・一人暮らしの高齢者の方々の家への訪問・北部地区の住民の方々との交流・藤里社協デイサービスにて利用者の方々との交流・生活支援ハウスぶなっちの利用者の方々との交流・藤里町の社会福祉事業についての説明・藤里RECの体験・藤里の里山見学等体験させていただいた。

・藤里町の一人暮らし高齢者のお宅への訪問と北部地区の方々との交流：

最近の異常気象であまり雨が降らない状況が続いているために、畑の作物などの育ちが悪く山のほうでも動物たちにとっての食べ物もあまりとれていないため動物たちが山から下りてきて畑を荒らしたり人が襲われそうになる被害もこの頃増えてきていておっかないとおっしゃっていた。また人が町から離れたり亡くなったりで人口が減ってきている現実にさみしさを感じているようであった。それでも毎年の夏冬にごまちゃんが来て一緒におしゃべりすることは楽しみの一つで孫が遊びに来るようなにぎやかな感じから嬉しいとおっしゃってくださった。北の地域なので今の時期のような夏の暑さには弱く高齢者が多いため家にこもることも多いという。標準語を秋田の方言の違いを感じたり住民の方々が育てているとれたての野菜をいただいたりしてゆったりとしたひとときを過ごした。

・社協デイサービスやぶなっちでの交流：

以前 2 年前に来た自分のことを覚えてくださっていた利用者の方がいた。若者が少ない中で年に数回でも藤里に若い人たちが来ることは場が華やぐし嬉しいとおっしゃってくださっていた。またデイの利用者の方で数か月前から利用し始めたばかりの方とお話をした際秋田の暮らしについて聞いてみたところ、自然が豊かでいいところではあるが藤里町に住み始めてまだ数年しか経っておらずもともと首都圏育ちにとっては秋田の鈍りが強い方言に慣れないとおっしゃっていた。

・藤里社協事業の説明：

町の過疎化と高齢化に伴い、県内からの若者の流出を防ぐため今年度の 4 月から新たに「町民すべてが生涯現役を目指せるシステムづくり事業」の実施が始まった。概要は老いも若きも、障害があってもなくても参加できるように、町民一人一人が持つ力を最大限活かして仕事を生み出し、全ての町民が生き生きと輝いて暮らす町づくりで若者にとっても住みやすい町にするというものである。主な事業体制は藤里町社会福祉協議会を主体とし、町民の中でも商工業者や農林業、福祉、メディカル、学生関係者などで結成したプロジェクトチームで、秋田県や山本郡振興局、藤里町の職員や大学等の専門家によるコンサルティング、商品開発指導などの協力を得ながら人・仕事・若者支援の 3 つの事業を展開させていく。

人づくり事業について。町の過疎化と高齢化の問題に着目し、今後も増え続ける高齢者を“支える”という発想では対応しきれない厳しい現状から、高齢化の過疎の町でも町民すべてが生涯現役を目指し藤里町を支える仕組みである。具体的には・シルバーバンク事業の強化・こみっとバンク事業の強化（でこみっとに来ている人たちの人間関係や当事者たちの自発性を高めていく取り組み）・生涯現役でいるための研修事業、またそれに加えて・今年の 9 月から「プラチナバンク事業」が開始された。特に 60 代～の町民で希望の収入ややる気、仕事時間、経験度の各分野でその人その人に合わせた働き方をきめて登録し、健康な方のみならず何らかの福祉サービスを利用されている方々の人が持つ昔ながらの豊富な知恵や知識を藤里町の活性化に役立てるという取り組みで実施が始まっている。

仕事づくり事業について。町の主な産業の低迷も過疎化や高齢化の原因であるため町民すべてが参加できる新たな主産業づくりを目指し、・製品化が可能な「地域の恵み」を集めて町の特産品を開発することや・仕事づくりの新たな拠点を作ることを掲げている。

若者支援事業について。町からの若者の人口流出を防ぐため今までの主だった高齢者対策に加えて・若者のために何ができるのかについての検討及び実施・住みやすい町づくりについて町外の若者の意向調査の実施で“若者だから支える”“高齢者だから支えられる”という考えからの脱皮を図ることで若者にとっても住みやすい町を目標に掲げている。

そして今年度から、これまで行ってきた就労訓練、就労体験カリキュラム等に 1、藤里体験カリキュラム（豊富な職業体験コースが取り揃えられており、藤里に住む農家の方や自営業の方などの講師の下、藤里町で働く良さを感じてもらうもの） 2、求職者支援事業（介護関係の職に携わりたい方向けに介護初任者研修を受けることができるもの） 3、こ

みっとバンク（シルバーバンクよりも若者層を対象とし、その人らしく生きるために一人ひとりに合った仕事を見つけていくもの）4、きらり☆カリキュラム（月替わりの多彩な2泊3日の中で世界遺産の白神山地ガイド体験やその時期に行われる地域のお祭りへの体験を楽しむことができるもの）の4つの短期間藤里体験ツアーを加えた。旅費や滞在費等の補助制度を活用できる藤里体験プログラムとして藤里町の知名度を上げ、藤里町の良さをアピールするために全国に向けての参加者募集を開始した。

・藤里 REC の体験

藤里 REC は世界自然遺産の白神山地の場所として様々な視点で町を記録し動画サイトで発信することで、藤里の持つ価値を再発見、発掘し藤里の良さをアピールしていくという映像プロジェクトである。映像投稿のネタを探し作り上げる中で、藤里町に愛着を持ちながらも第三者である自分たちにとっての藤里町の魅力とは何かについて考えさせられた時間となった。

自分たちはボランティアサークルごまちゃんとしてメンバーは少しずつ入れ替わりながらも毎回夏の時期と冬の時期に訪問し、藤里の住民の方々や社会福祉協議会の関係者の方々と10年以上のつながりを持たせていただいている。住民の方々とのかかわりを軽度くする中で自分たちがこんなにも町民の方々に愛され歓迎される理由としては、強いつながりのほかにも町に住む若者の数が非常に少ない状況にあるからと考える。地方での人口減少が問題視されている中で、町をよくしていくためには町のトータルケアとともにこれからは外にその地域の魅力を発信し積極的に外から人を呼び込むアピールが必要であることが分かった。今回の国内研修に参加し、藤里町をさらに盛り上げていく取り組みが増えており町の方々の町への愛を感じた。そして改めて藤里の人や自然の良さを体感できた濃い2泊3日だったと思っている。

文献：

人口統計ラボ（秋田県山本郡藤里町藤琴 年齢別男女）

<http://toukei-labo.com/2010/nenrei.php?tdfk=05&city=05346&id=2>

藤里社協事業の説明資料等